にじのはし幼稚園
園だより

平成２７年　２月号
港区立にじのはし幼稚園
園 長　 新 井 智 子

思いがつながる

園　長　 新 井 智 子

時間にすればわずか 10 秒足らずの出来事です。

登園時､園長が門に立ち子どもたちを迎えていると､３歳児 A 君親子がやって来ました。私を見つけ A 君が歩みを速めたとき、後ろから来た同じ組の B 君が、勢いよく走り出し A 君を追い抜かさんばかりになったのです。その動きを感じた A 君は『ぼくのほうが先だったよ』という思いだったのでしょう、顔が一瞬のうちに曇り泣き出しそうになりました。それを見た B 君は走るのをやめ A 君の後ろに立ちました。そして、A 君 B 君の順に私と挨拶を交わすと、二人は手をつなぎ笑顔で保育室に向かって行きました。このわずかの間「おはよう」の挨拶のほかには言葉はありません。けれども、たくさんの声にならない言葉が二人の間で交わされ、思いを伝え合っていたように感じました。

１月の誕生会。今まで司会を務めていた５歳児が、引き継ぎのため４歳児に司会の仕事を伝授し、３～４人ずつ一緒に前に出て司会をしました。「これから、１月生まれの誕生会を始めます。１月生まれのお友達、前に出てきてください。おめでとうございます」始めの言葉は、子どもらしい元気な棒読みでしたが、５歳児は、励ますように４歳児の顔を覗き込みながら、４歳児は緊張しながらもはっきりと声を揃えて言いました。お辞儀をし、席に戻るとき、期せずして５歳児４歳児２人の子から「あぁ、よかった」と声が漏れました。『４歳児が教えた通り無事にできてよかった』『教えてもらった通りできてよかった』という安堵感からでしょう。『仕事』をともにした時間は短いものでしたが、そこに連帯感が生まれていました。

私たち、にじのはし幼稚園の今年度の研究テーマは
『人との心地よいつながりの中で、自分らしさを発揮する幼児　―人とかかわる底力の育成―』でした。研究は、伝承遊びや運動遊びを通して進め、日ごろも指導の際には「心地よいつながり」を常に意識しました。そのような研究や指導の結果、子どもたちの心にどのように指導が響き、育っているかを知るのは、やはり何気ない日頃の言動にあると思っています。１年間の幼稚園での生活や遊び、先生や友達との触れ合い、保育園、お台場学園の小中学生、地域の方々との交流、すべての経験が、子どもたちの思いのつながりを生み、心のつながりを育みました。日常の一コマにその表れを見つけるにつけ嬉しい気持ちになります。子どもたちにとって、幼稚園が友達との心地よいつながりの場になっていることを実感するこの頃です。

３歳　こままわし

４・５歳　「誕生会　司会を頑張りました」